

氏名	賴 敏 裕
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 1347 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和57年12月31日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）
学 位 論 文 題 目	インターフェロンの抗腫瘍性に関する研究 第1編 In vitroにおけるヒト造血腫瘍細胞株の増殖に及ぼすインターフェロンの効果 第2編 ハムスターに移植したヒト急性リンパ性白血病細胞株の増殖に及ぼすインターフェロンの効果
論 文 審 査 委 員	教授 長島秀夫 教授 太田善介 教授 折田薫三

#### 学 位 論 文 内 容 の 要 旨

第1編：浮游培養法を用い、12種類のヒト造血器腫瘍細胞株に対するインターフェロン（IF）の増殖抑制効果並びに各細胞株の感受性差を検討し、細胞の種類あるいは表面形質の差によりIFに対する感受性が異なることを明らかにした。5系のT-cell株中胸腺細胞抗原を保有する4系のT-cell急性リンパ性白血病細胞株（TALL-1, HSB-2, MOLT-4, HPB-ALL）がいずれもIFに対して高度ないし中等度の感受性を示したのに対し、末梢T-cell抗原を保有する人T-cell白血病細胞株（MT-1）はIFに対し低感受性であった。

第2編：ヒトB-cell及びT-cell急性リンパ性白血病細胞株BALL-1, TALL-1を免疫抑制下の新生児ハムスターに移植し、その増殖に及ぼすIFの影響を検討した結果、① TALL-1がBALL-1に比し、IFによってより強くその増殖が抑制された。② BALL-1に対する増殖抑制効果はIFあるいはcyclophosphamideの単独投与に比し、両者の併用投与により増強された。③ TALL-1に対する増殖抑制効果もIF或いはL-asparaginaseの単独投与よりも両者の併用投与の方がすぐれていた。

## 論文審査の結果の要旨

本研究は造血腫瘍細胞株ならびに急性リンパ性白血病の増殖に及ぼすインターフェロンの効果について実験的に研究したもので、インターフェロンの抗腫瘍性について種々の重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。